

里山グループ

里山の今



エコファームグループ

◆ミツバツツジの並木道を夢見て

戸田 博子

少し季節はずれてくるが、里山の春を告げる木の花としてコバノミツバツツジがある。

まだ冬の色を残している中で、明るい紫色とも桃色ともつかない花は、1本あるだけで森を明るくする。

昨年秋、台風で多くの木がならやまでも倒れた。テントから東に向かって走るサイクリング・ロード横のナラの大木も被害を受け、切り倒された。

その跡地に、コバノミツバツツジを里山Gで移植を試みた。元々ならやまにある木だから、うまく根づくかもしれない。

小低木なので、日陰は作らないかもしれないけれど、ならやまに春を告げる花を咲かせ、歩く人、自転車で通るグループの目を楽しませる並木になってほしい。

令和に改元した年に植えた「あなたたち?」。

食べ物が少ない時期に、鳥や小さな昆虫たちに蜜を提供する存在になってほしい。



温暖化による気候変動や、異常気象のための、大型台風にも負けずに頑張ってるね。

「あなたたち」の仲間が増えますように、私たちもお手伝いしたいと思っている。

◆我が家の山の畑

大畑 むつみ

我が家の畑は「ならやま」のまねしい畑です。ひたすら「ならやま」から学んでいます。

5年ほど前から知り合いの山の畑の一角を使わせてもらっています。畑といっても放置されていたので草は茂り、土は粘土質で固く、ササも侵入し畝をつくるのも大変でした。農作業といっても知らないことだらけ、連れ合いもまだ仕事をしていてなかなか手をかける時間もなく、1、2年目は見た目も無残な畑でした。好意で貸して下さった地主さんにも申し訳ない気持ちになったものです。

一昨年、シニア自然大学校の実習でソバの種まきを体験させてもらい、その時種をもらいました。その種を山の畑にまいたら、あつという間に芽が出て、風にそよぐ、かれんな花が咲き3か月後には、ほんの数粒の種から手のひらいっぱい種が取れたのです。面白い!と思いました。がぜん意欲が湧いてきました。

昨年、これはうまい芋やで!という里芋をもらいました。植えてみましたが葉を全部虫に食べられ水も不足して芋はできませんでした。家族の入院も重なって畑をほったらかしにした結果でした。

ならやまのエコファームは土作りから始まって、みんなが手をかけて畝作り、種まき、施肥、草抜きなどを行っています。野菜は正直、手をかければかけるほどおいしい野菜ができると実感しました。よし!山の畑の農作業にも、と、ならやまの取り組みをまねすることにしました。おかげで5年目の我が家の山の畑は、見た目も美しく(自画自賛ですが)生き生きとした、おいしい野菜が収穫できるようになりました。

今年は落花生の種をもらいました。去年は苗を購入して植えたのですが、なにしろ山です、獣に食べられ、悔しい思いをしました。今年はリベンジ、自宅で大きめの鉢に植えてみました。ならやまの畑と見比べながら育ててみようと思っています。同じくらい収穫できればグッジョブ!です。

景観グループ

福田 美伸

◆ 筍の話と掘り方について

筍の美味しい季節は終わりました。沢山食べすぎて嫌になったのではないのでしょうか。

孟宗竹には、エグミがあり、食べるには少し面倒な食材です。エグミの元はアミノ酸の仲間であるホモゲンチン酸とシュウ酸だそうです。



アミノ酸だから美味しいはずなのに？ 掘ってからすぐに茹でればいいのですが、時間経過による酸化が原因とも言われています。しかし、山城の筍は真っ白で時間が経っても、美味しい筍です。

竹は東南アジアが原産で、青森が北限です。北海道には竹はありません。そのため、七夕飾りは柳の木に吊るすとか。東南アジアに、延べ1年半ほど滞在しましたが、筍を食べたという記憶はありません。高級食材でないからか？ 東南アジアでは、生の筍を薄く切って油で揚げるか、炒めるか、また、発酵したものを炒めるか、色んな食材を入れる料理で、日本のように主食材ではありません。

料理も面倒ですが、筍を傷つけることなく掘るのは難しいです。地中の筍を見つけるには、3年から5年生の竹（節が黒くない）の1mほどの周りを歩き周れば、きっと、足の裏に筍のとがった穂先を感じることができます。

筍の芽は、2年目の夏ごろから徐々に大きくなり、2年後の2月初めに、沢山雨が降ると、地中で一挙に成長します。「竹は節部に枝を付けます。筍も根っこの節部に芽をつけ。根端に向かって成長し、大きくなるにつれ、曲がって地上に出ます。竹の枝を掃う場合、竹の下方方向からでは、掃えません。竹の穂先の方向からは、簡単に掃えます」

筍を掘るのも同じです。筍の穂先は、根っこの先端方向に少し傾いています。筍の周りの土を取り除き、傾いている方向の3cmから5cm手前を、根っこの上を平行にスコップを、力強く入れることができれば、一発で筍を綺麗に掘り出すことができます。上記の通りできれば、来年、あなたは筍掘士一級に認定されるかも知れません。



パトロールグループ

木村 宥子

◆ 観察路 階段の修理

春からのパトロール班は、山の中にある沢山の階段の修理に集中的に取り掛かっています。

横木は直径 10 cm程のコナラの木など、それに杭を4本ずつ打ってあります。木杭は充分の本数を確保できないので、太い竹を四つ割りにして使うことが多かったのですが、竹は腐りやすいし、木にすべきだという強い声もあり、順次木の杭に替えることになりました。幸い(?) ナラ枯れなどで伐倒された木の枝から、杭を作ることができました。全山で約 1000 本は必要でしょう。ようやく 500 本程でき、階段修理にも取り掛かりました。



横木や杭を背負って現場へ

5月は1コースを中心に直しています。腐っている段は横木も新品に替え、まだしっかりしているものは杭だけを取り換えます。小型のカケヤで打ち込みますが、簡単には打ち込めない所もあります。出来上がると私たちは最初の登山者になります。

しかし、丸木といえども木ですから、その内痛み始めるでしょう。この山にプラスチックは似合いませんが、やはり杭だけはプラスチック製の杭に換えることも考えなければならない時が来るかもしれません。



出来上がった杭

階段の修理作業